

中国語・日本語における完結性の習得  
—中国語・日本語双方向学習者コーパスに基づく検証—

**Second Language Acquisition of Telicity in  
Chinese and Japanese:**  
**Analysis based on the TUFs co-referential learners' corpora of  
Chinese and Japanese**

望月 圭子

東京外国語大学大学院総合国際学研究院

MOCHIZUKI Keiko

Institute of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

はじめに

1. 多言語学習者コーパスにおける相互参照性
2. 日本語母語話者による中国語の語彙的アスペクトの習得
3. 日本語と中国語のアスペクト複合動詞
4. 日本語のアスペクト複合動詞の習得: 「～かかる / かける」
5. 日本語のアスペクト複合動詞の習得: 「～上げる / 上がる」
6. 中国語のアスペクト複合動詞の習得: <V1 + 上>
7. 日本語母語中国語学習者にみられる未実現を表す助動詞<会 hui>の過少使用
8. 中国語と日本語における事象の実現・未実現を表す言語形式の相違
9. 日本語・中国語の統語構造とアスペクト複合動詞の語構造の相違
10. 日本語・中国語の時間認知の「有界性」の相違と習得への影響

おわりに

キーワード: 完結性の習得, 日本語・中国語双方向学習者誤用コーパス, アスペクト複合動詞, 結果補語,  
有界・無界的認知, 統語構造・語構造の類型的相違

Keywords: Second Language Acquisition of Telicity, Learners Error Corpora of Japanese and Chinese,  
Aspectual Compound Verbs, Resultative Compound Verbs, Cognition of Telicity, Typology of  
Syntactic / Lexical Structure



本稿の著作権は著者が所持し、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

### 要旨

本研究では、中国語・日本語学習者コーパスの双方向的分析を通して、完結性を表す文法形式の第二言語習得と学習者の母語の種類の相関性を論じる。

まず、日本語母語話者による中国語学習者コーパスでは、アスペクト表現の誤用「実現性を表す結果補語の脱落」及び「未実現性を表す助動詞〈会〉の脱落」が顕著である。一方、中国語母語話者日本語学習者コーパスでは、日本語において出現頻度も高い「アスペクトを表す複合動詞」(e.g. 将然相：～かける / かかる, 始動相：～だす, 完結相：～上げる / 上がる) 等の非用や、動詞の自他の誤用(特に結果性を表す自動詞の過剰使用) が顕著である。

中国語学習者によるこのような誤用・非用は、アスペクト表現において、中国語では事象の「実現 / 未実現」を表示する「有界的」(bounded) 表現が卓越しているのに対し、日本語では「無界的」(unbounded) 認知が卓越しているという類型的相違に起因することを論じ、学習者の母語をふまえた中国語・日本語教授法を提案する。

### Abstract

The purpose of this study is to explore the second language acquisition of telic forms in Chinese and Japanese grammar based on TUFs co-referential learners' corpora of Chinese and Japanese.

First, the TUFs Japanese Learner Corpus of Chinese shows that Japanese learners have difficulties in acquiring resultative compound verbs and Chinese irrealis auxiliary “hui”. On the other hand, the TUFs Chinese Learner Corpus of Japanese shows that Chinese learners have difficulties in acquiring aspectual compound verbs (e.g. inchoative “-kakeru/kakaru”, “-dasu” and perfective “-ageru/agaru”), and overuse of resultative intransitive verbs in transitive/intransitive pairs in Japanese.

We claim that these difficulties in learning telicity are due to the typological difference in cognition of “Boundedness”; Chinese is a “bounded-cognition prominent” type language while Japanese is an “unbounded-cognition prominent” type language. We also explore effective pedagogy based on learner's L1 typology in syntactic word order, word syntax and cognition of realis/irrealis.

## はじめに

本稿の目的は、日本語学習者コーパス・中国語学習者コーパスにおいて、異なる言語を母語とする学習者の産出を比較することによって、学習者の母語の類型的相違が第二言語習得にどのように影響しているかを論考することにある。なかでも、「完結性」(Telicity)に関わる表現の習得は、第二言語習得のなかでも、最も難易度が高い文法項目である。また、失語症患者による母語の言語回復においても、アスペクト表現の回復は最も遅く、難易度が高いということである。そこで、本稿では主に日本語・中国語のアスペクト表現の第二言語習得に焦点をあてて考察し、さらに日本語・中国語の有界的認知の類型的相違と第二言語習得の関連を論考する。

まず、本稿で分析対象とする誤用タグ付き中国語・日本語学習者コーパスについて、公開されているものを以下に紹介しておく。

- (1) 東京外国語大学国際日本研究センター「日本語・英語・中国語学習者コーパス・誤用検索」システム
- (2) 東京外国語大学国際日本研究センター「日本語学習者作文コーパス及び誤用辞典」
- (3) 東京外国語大学国際日本研究センター「中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典」

## 1. 多言語学習者コーパスにおける相互参照性

上記 (1)(2)(3) の日本語・英語・中国語学習者コーパスは、「学習言語」×「学習者の母語」の組み合わせとして、以下の図1のような6種類の対照パターンが可能で、各言語の文法習得において、「学習者の母語が異なれば、どのような異なる第二言語習得をみせるか」という第二言語習得研究に活用可能である。

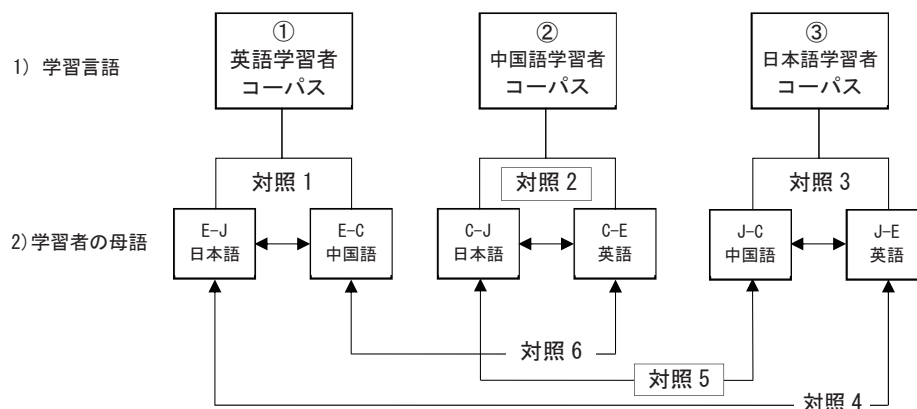


図1 「学習言語」×「学習者の母語」の組み合わせと対照パターン

本稿では、まず図1の「対照5」について論考する。即ち、②の中国語学習者コーパスのうち、「日本語母語話者による中国語学習者コーパス」(C-J)と、③の日本語学習者コーパスのうち、「中国語母語話者による日本語学習者コーパス」(J-C)を双方向に比較する。双方の比較の目的は、

第一に「日本語母語話者は、中国語を習得する際にどのような日本語の特性の影響を受けるのか」、第二に「中国語母語話者は、日本語を習得する際にどのような中国語の特性の影響を受けるのか」を双方向に分析する点にある。さらに、図1の②の「対照2」を用いて、中国語学習者コーパスにおける「日本語母語 vs. 英語母語話者」の産出の対比もあわせて考察する。

## 2. 日本語母語話者による中国語の語彙的アスペクトの習得

日本語母語中国語学習者にとって、中国語の補語の習得が困難であることは、中国語教育において従来から指摘されてきた。望月(2018)では、学習者コーパスに基づく分析から、中国語の結果補語の習得が、日本語母語話者は英語母語話者に比べてより困難であることを指摘した。本論文では、さらにデータを精密化して分析していく。

中国語の結果補語において、中国語母語話者による使用頻度が高い結果補語は、動作動詞に後について、事象の完結を表す結果補語 <- 到 dào> <- 成 chéng> <- 完 wán> が挙げられる。この三種類の結果補語の産出について、日本語母語話者、英語母語話者、中国語母語話者による産出を比較する。分析対象のコーパスは、以下の三種類のコーパスである。

第一に、東京外国語大学日本語母語話者による「中国語学習者作文コーパス誤用検索サイト」<sup>1)</sup>、第二に台湾師範大学と協働製作した「英語母語中国語学習者コーパス」<sup>2)</sup>、第三に「中国語母語話者コーパス」<sup>3)</sup>を用いて分析する。

張正(2019:54)では、上記の三種類のコーパスを用いて、その結果補語の産出について、以下の表1のような集計を行っている。

【表1】 事象の完結を表す結果補語の産出の比較 (張正2019:54による)

	日本語 母語話者	中国語 母語話者	検定	英語 母語話者	中国語 母語話者	検定
結果補語	調整頻度 (100,000 語当たり)		p 値	調整頻度 (100,000 語当たり)		p 値
～到 dào	393.98	3338.78	<.0001	523.93	3338.78	<.0001
～成 chéng	58.64	260.35	<.0001	53.26	260.35	<.0001
～完 wán	18.32	15.60	0.4736	82.99	15.60	<.0001
～好 hǎo	15.58	24.84	0.0531	63.17	24.84	<.0001
～掉 diào	5.50	14.74	0.0121	9.91	14.74	0.2597
～错 cuò	10.99	15.04	0.2779	7.43	15.04	0.0786
～开 kāi	1.83	13.85	0.0007	1.24	13.85	0.0023
～住 zhù	13.74	17.59	0.3408	8.67	17.59	0.0566
～坏 huài	3.66	27.64	<.0001	2.48	27.64	<.0001
～满 mǎn	4.58	25.12	<.0001	7.43	25.12	<.0001

表1の三種類のコーパスは、叙述内容・文体・学習者レベルで厳密なコントロールがなされていないものの、三種類のコーパスで最も出現頻度数の高い結果補語 < 到 dào > について分析すると、日本語母語中国語学習者は10万字あたりの使用頻度が393.98字であり、中国語母語話者の10万字あたりの使用頻度3338.78字と比較して有意に低い。また、英語母語話者による10万字あたりの使用頻度523.93字と比較してもやや低い。日本語母語話者が、中国語の結果補語の産出頻度において、中国語母語話者や英語母語話者に比べて低いという現象は、どのような要因によるものなのだろうか。

まず、実際の例文をみよう。「中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典」から、日本語母語話者による結果補語の脱落例を、以下の(4)(5)(6)(7)として挙げる。下線部が結果補語の脱落による誤用例で、“→”の右に正しい用例を示す。

- (4) a. 如果住在车站附近的话, 人们 → 就(add, 关联副词) 很容易买 → 买到(add, 结果补语) → 他们  
(add, 主语) 需要的东西。

(TUFUS\_CH\_043: 東京外国語大学中国語専攻2年生: 中国語学習歴13ヶ月)

- b. (日本語訳) 駅前に住んでいたら, 必要なものを容易に買える。

- (5) a. 有 (add, 动词 存现动词) 学者说, 因为城市生活 → 里 (replace, 名词 短语 方位词 方位短语) 有很多人, 有 → (delete, 动词 存现动词) 很多噪音, 还有有很多压力, 所以脑子 → 精神 (replace, 名词) → 会 (add, 动词 能愿动词) 受 → 受到(add, 结果补语) 更大的影响。

(TUFUS\_CH\_051: 東京外国語大学中国語専攻2年生: 中国語学習歴13ヶ月)

- b. (日本語訳) ある学者は, 都市の生活は, 人も多く, 騒音もあり, またストレスも大きく, 精神面でもより大きな影響を受けると述べている。

- (6) a. 所以 (add, 连词) 自然的 → 地 (replace, 结构助词) 人 → 人们(replace, 名词) → 都(add, 范围副词) 汇集 → 于此 (add, 介词短语补语), 就业机会也很多, 并且好大学 → 好的大学 (replace, “的” 字 短语) 一般 → 都 (add, 范围副词) 在城市, 所以农村的青年人 → 年轻人 (replace, 名词) 希望去城市受 → 接受 (replace, 动词) 良好的教育, 找 → 找到(add, 结果补语) 好 (add, 形容词) 工作。

(TUFUS\_CH\_056: 東京外国語大学中国語専攻2年: 中国語学習歴36ヶ月, 中国語検定: 3級(2012.3))

- b. (日本語訳) このため, 人々は当然都市に集まる。都市では, 就職の機会も多く, また名門大学も都市にある。このため, 若者は都市に行って良い教育を受け, 仕事をみつけることを望むのである。

- (7) a. 我现在 在东京 → (delete move, 补语 介词短语补语) 一个人住 → 在东京(add move, 补语 介词短语补语), 所以不能跟我父母在一起, 也不能直接孝敬他们。我唯一能做的事 → 就(add, 助词 语气助词) → 是(add, 动词 关系动词) 多给他们打电话, 让他们 听 → 听到(add, 结果补语) 我精神饱满的声音。

(TUFUS\_CH\_013: 東京外国語大学中国語専攻3年生: 中国語学習歴38ヶ月)

- b. (日本語訳) 今, 私は東京で一人暮らしをしているので, 両親とは一緒にいられないし, 親孝行をすることもできません。私が唯一できることは, しばしば電話をして, 元気な声を両親に聞かせることです。

(4)(5)(6)(7) の誤用例からわかることは, 以下の二点である。

第一に, 中国語の動作動詞は, 単独では事象の完結性 (Telicity) を表すことができず, 結果補語 <- 到 dào> を伴って初めて, 事象の完結性を保証することができる。事象の完結性を表す結果補語 <- 到 dào> は, 前置される動作動詞と結合して, 「動作動詞」を「到達動詞」(Achievement Verb) にする機能がある。

第二に, 日本語母語話者は, 結果補語 <- 到 dào> 習得において, 脱落が顕著である。(4)(5)(6)(7) でみられる各結果補語の脱落例をみると, 日本語母語話者には, 「事象の完結性を表す場合, 動作動詞の後に結果補語 <- 到 dào> が結合して初めて, 完結性を保証する「到達動詞」になる」という中国語における動詞の語彙的アスペクトの習得が困難であることを示している。

では, なぜ日本語母語話者は, 結果補語 <- 到 dào> の習得が困難なのだろうか? 母語の日本語における, 事象の完結性を保証する到達動詞の形式が中国語とは異なるため, 習得に影響しているのだろうか? この問いに答えるために, 中国語の結果補語に対応する日本語表現は, 「動詞の自他対応における自動詞」が相当する場合が多いことを (8)(9)(10) に例示する。

- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| (8) a. 他動詞「見る mi- <u>φ</u> -ru」   | 看 kàn                                    |
| b. 自動詞「見える mi- <u>ε</u> -ru」      | 看 <u>到</u> kàn dào / 看 <u>见</u> kàn jiàn |
| (9) a. 他動詞「貯める tam- <u>ε</u> -ru」 | 存 cún                                    |
| b. 自動詞「貯まる tam- <u>ar</u> -u」     | 存 <u>满</u> cún mǎn                       |
| (10) a. 他動詞「直す nao- <u>s</u> -u」  | 修 xiū                                    |
| b. 自動詞「直る nao- <u>r</u> -u」       | 修 <u>好</u> xiū hǎo                       |

動詞の自他は, 日本語においては, 「動詞の接辞」によって表示され, 活動動詞としての他動詞の結果, 自他対応の自動詞表現が到達動詞として, 動作動詞の完結性を保証する。一方で, 中国語においては, 活動動詞の後に, 「結果性を表す形容詞」が結果補語として付加することにより, 動作動詞の完結性を保証する。即ち, 動作動詞の完結性は, 日本語では動詞の接辞, 中国語では動詞に後続する形容詞によって表されるという相違がある。「語の一部である接辞」対「形容詞」という結果性を表す形式の相違が, 日本語母語話者にとって認知的負担となり, 習得を困難にしている可能性が示唆される。

同様の現象が, 日本語の第二言語習得においても観察される。日本語の第二習得研究においては, 学習者の母語にかかわらず, 「動詞の自他」は誤用が多く, 習得が困難である。

まず, 日本語における動詞の自他対応は, 中国語では, 他動詞が「動作動詞」, 対応する自動詞が「動作動詞+結果補語」に相当することが多い。望月 (2009:91) では, 東京外国語大学外国語学部日本専攻 (2008 年当時) 2 年生 (日本語能力試験 1 級以上の上級学習者) の文章表現クラスにお



いて、中国語母語上級日本語学習者が、動詞の自他対応のうち、「他動詞を使うべきところに、自動詞を用いる」現象が多いことを観察し、以下のような仮説をたてている。

(11) 中国語母語話者による中間言語体系：日本語動詞の自他の対応

日本語の自他対応のペアにおいて、他動詞の形は完結性をもたない行為動詞で、自動詞の形は完結性をもつ行為動詞である。

(11) のような中間言語体系に基づけば、中国語母語学習者が、動詞の自他対応習得において、「日本語の自動詞形式が完結性をもつため、結果状態を表すときには自動詞の形式を選択する」という中間言語が形成される可能性が示唆されるが、それは実際に上級日本語学習者コーパスにおいても観察される。以下 (12) に、望月 (2009:91-92) で挙げられている「他動詞をつかうべきところに、自動詞を多用している誤用例」を紹介しておこう。

(12)

- a. 現在夏にもビジネスマンが変わらないスーツを着て、仕事をするが、暑い季節が人の気持ちを変わって (→変えて) しまう。 (CC604\_2)
- b. 最近、夏季軽装に変わる (→変える) ことは環境にもよい影響をあたえる。 (CC604\_2)
- c. 話し方に断続性を感じ、つながってあって (→つなげて) ほしいなど。 (CC702)
- d. 聴衆を見ていて伝わりたい (→伝えたい) という感じがありました。 (HC703)
- e. ゆめをかなう (→かなえる) ことは、人間にとって、これ以上の喜びはないでしょう。 (CC703\_1)
- f. 言語学者はつながったままのボタンを学習者に渡った (→渡した) が、解く方法を教えない。 (CC703\_5)
- g. この広告はただ 30 秒の劇的な演出で、商品の特徴と価値を視聴者につたわった (→つたえた)。 (CC711\_4)
- h. ジェスチャーでも加わった (→加えた) 方がいいのでは。 (CC801)

さらに、日本語の複合動詞の後項述語においても、以下の (13) に示すように、他動詞を使うべきところに自動詞を用いて、日本語としては存在しない複合動詞が産出されている。

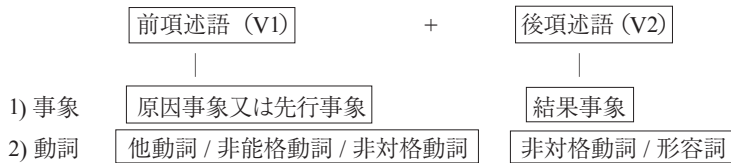
(13)

- a. 主人公は、2 秒ほど新聞を読み続けている (→続けている) とき、読売新聞のロゴが浮かび上がる。 (CC808\_4)
- b. 大手、小手のメーカーはずいぶん工夫し、観客に覚えさせようを目指し、コマーシャルを作りつづいている (→続けている)。 (CC808\_4)
- c. わたしは目を丸めて顔を近づき (→近づけ)、一枚一枚の花びらの姿を見つけようとした。 (CC703\_3)
- d. 私は十八年ずっとこの町の発展を見届いて (→見届けて) きた。 (CC804\_6)

- e. かえって、自分の靴を蹴飛ばして、ベンチの背もたれの隙間に突き刺さった。(→突き刺してしまった)  
 (CC601\_3)
- f. ただ、声が少し小さくて後し(→後ろ)に座る人には少し聞き取れ(→聞き取り)づらかった。  
 (CC801)
- g. 声量がありますし、はっきりした発音でとても聞きとれ(→聞きとり)やすいです。(CC802)
- h. となると、多様化した言語の学習と使用が新しいアイデンティティーを生まれだす(→生み出す)ことにつながるのである。(CC811\_5)
- i. 日本というと、すぐ桜を思い出すように、洛陽という「牡丹花」を思い浮かぶ。(→思い浮かべる)  
 (CC801\_1)

では、こうした「複合動詞の後項に、自他対応の他動詞を使うべきところ、自動詞を誤って産出する」現象の原因はどこにあるのだろうか？ その現象は、結果性を表す中国語動詞が、以下の (14) のような語形成規則に基づいて構成されていることと関係がある。

(14) a. 中国語結果複合動詞の「事象構造」と「述語の組み合わせ」



- b. 打破 dǎ-pò (力を加えて壊す / 力が加わって壊れる)  
 摔坏 shuāi-huài (速い速度で落として {壊す / 壊れる})  
 喊哑 hǎn-yǎ (叫びすぎて {声をからす / 声がかれる})  
 累坏 lèi-huài (疲れて {体が壊れる / 体を壊す})

(14a) に示すように、中国語の結果複合動詞においては、前項述語と後項述語との間に、「他動性調和の法則」(影山 1993) のような自他動詞の結合制限もない。さらに、(14b) に示すように、複合された複合動詞は、他動詞用法と自動詞用法の両方がある能格動詞の場合も多く、自他の形態的区別もない。(14a) に示されるような中国語の結果複合動詞の形成規則が、「\* ~を読み続く」「\* ~を作り続く」「\* ~を見届く」「\* ~を思い浮かぶ」といった誤用を生み出した可能性があり、「結果性を表す場合は、自他対応の自動詞を選択する」という中間言語を生み出している可能性がある。

以上、形態論的視点から、中国語母語話者においても、日本語の動詞の自他対応のうち、結果性を表す場合には、自動詞表現を誤って選択する中間言語が存在することを示した。その中間言語の基盤となっているのは、中国語における結果補語の認知的卓越性による母語の影響であることが示唆される。

さらに、日本語母語話者が中国語の「完結 / 非完結性」を表す表現の習得が困難な要因として、結果補語の誤用では、例えば、事象の完結性を表す結果補語 <- 到 dào> の文法化されたアスペクト用法を完全には習得しておらず、既習の結果補語・可能補語表現を一語として記憶し、結果として意味的に誤った補語を用いる誤用も多い。日本語母語話者向けの中国語教授法としては、結果



補語は一語として記憶させるのではなく、結果補語の基本的意味用法を習得させ、各結果補語がどのように V1 と結びついて生産的な意味をもつのかという教授法が必要である。

次の第3節では、日本語と中国語のアスペクトを表す複合動詞に焦点をあて、その比較と習得について考察する。

### 3. 日本語と中国語のアスペクト複合動詞

「アスペクト複合動詞」(Aspectual Compound Verbs) とは、影山 (2013:11) によれば、以下のような複合動詞である。

(15) 文の項関係は基本的に、V1 によって決まり、V2 は広い意味で語彙的アスペクトを表し、V1 が表わす事象の展開について述べる。

a. 補文関係：

～上げる / 上がる (完了)：歌い上げる、磨き上げる

～逃がす (不成功)：見逃す

b. 副詞的：

～渡る (隅々まで及ぶ)：響き渡る、晴れ渡る

一方、中国語にも日本語のアスペクト複合動詞に相当するアスペクト複合動詞がある。

(16) a. <- 好 hǎo> : 「完結相 + 結果の産出」

「～上げる / 上がる」 写好 xiě-hǎo 论文。(論文を書き上げた)

蛋糕烤好 kǎo-hǎo 了。(ケーキが焼き上がった)

b. <- 上 shàng> : 「起動相」

「～出す」 会议还没开大家就议论上 yìlùn-shàng 了。(会議前に皆は議論し出した)

最近又忙上 máng-shàng 了。(最近また忙しくなり出した)

c. <- 光 guāng> : 「完結相 + 対象の消滅」

「～切る」 吃光 chī-guāng (食べ切る)

花光 huā-guāng (お金を使い切る)

卖光 mài-guāng (売り切る / 売り切れる)

d. <- 住 zhù> : 「完結相 + 固着」

「～止める」「～こむ」 叫住 jiào-zhù 了一辆出租车 (タクシーを呼び止める)

记住 jì-zhù (覚えこむ)

e. <- 上 shàng> : 「完結相 + 接合」

「～つける / つく」 贴上 tiē-shàng (貼り付ける)

装上 zhuāng-shàng (取り付ける)

f. <- 着 zháo> :「完結相+目標達成」

「〜つく<sub>2</sub>」「〜出す」「〜当てる」 睡着 shuì-zháo 了 (寝つく)

找着 zhǎo-zháo 了 (探し出す; 探し当てる)

また、中国語では (17) に示すように、移動を表す「方向補語」複合動詞からアスペクトを表す「結果補語」複合動詞への意味拡張も顕著である。

(17) a. <- 起来 qǐ lái>「上方移動」から「起動相」へ (〜出す)

b. <- 下去 xià qù>「下方移動」から「継続相」へ (〜続く / 続ける)

#### 4. 日本語のアスペクト複合動詞の習得：「〜かかる / かける」

玉岡・初 (2013:415-426) では、「〜上がる / 上げる」「〜かかる / かける」「〜入る / 入れる」の習得について、中国の大学の日本語学習者に対して調査したところ、最も習得が難しかった条件は、他動性や学習期間に関わらず、「V1 動詞が難しく、意味的に抽象的な語彙的複合動詞」であると述べている。玉岡・初 (2013:416) で挙げられている「語彙的複合動詞の日本語学習時間1年間と2年間の正答・誤答者数及び正解率」の表で興味深いのは、以下の表2に表されるように、始動を表すアスペクト複合動詞の「〜かかる / かける」の習得が、最も低いという事実である。

【表2】「将然相」アスペクト複合動詞の「〜かかる/かける」についての学習者の正答率  
(玉岡・初(2013:416)による)

	学習期間 1 年間学習者 正解率	学習期間 2 年間学習者 正解率
1) V1 の意味易 死にかかる	49.2%	70.9%
2) V1 の意味難 崩れかかる	60.0%	58.3%
3) V1 の意味易 飲みかける	64.6%	73.8%
4) V1 の意味難 倒れかける	38.5%	57.3%

日本語学習者にとって、日本語の複合動詞のなかでも、多義語である「〜かかる / かける」の用法の習得が困難であることは、従来から指摘されてきた。とりわけ、興味深い現象として、玉岡・初 (2013:416) が示しているように、中国語母語日本語学習者においては、表2のような、アスペクト複合動詞として「将然相」を表す「〜かかる / かける」の習得率は、具体的移動を表す「降りかかる」「襲いかかる」「吹きかける」「着せかける」の習得率に比べ、顕著に低い。これは、なぜなのだろうか。

その要因として、中国語のアスペクト複合動詞 (中国語学では、‘V1 + 結果補語’ と呼ばれる複合動詞) は、「将然相」を表さないため、対応するアスペクト複合動詞が存在しないという中日語間の

相違が考えられる。例えば、「死にかかる」は、<快 kuài 要 yào 死 sǐ> と表され、未完結相であるため、中国語のアスペクト複合動詞とも呼べる結果補語で表すことができない。

「読みかける」「読みさす」「読み続ける」など、アスペクト複合動詞文のうち、事態全体が完結性をもたない場合は、中国語ではアスペクト複合動詞を用いることはできず、始動相「読むことを始める」、中止相「途中まで読んでやめる」、継続相「読むことを続ける」というような動詞句としてしか表せない。なぜなら、中国語のアスペクト複合動詞の典型は結果複合動詞であり、V2 が結果事象を表す述語でなければならないという「完結性の原則」が働くからである。

## 5. 日本語のアスペクト複合動詞の習得：「～上げる / 上がる」

「～上がる / 上げる」の習得は、中国語においても、同じ漢字の結果補語 <上 shàng> が存在するものの、「～上がる / 上げる」と結果補語 <上 shàng> の意味用法が異なるため、習得がむずかしいようである。前出 (2) の東京外国語大学国際日本研究センター「日本語学習者作文コーパス」においては、上海外国語大学と協働で収集した中国語から日本語への翻訳タスクにおいて、以下のようなアスペクト複合動詞の非用が観察される。

(18) レストランで ちょうど蒸しまった → 蒸し上がった 八宝飯を見たら、必ず注目します。  
(上海外国語大学/Sh\_010\_Task\_01.xml)

(19) 胡先生一家は突然に 出現した私に「ちょうど蒸した → 蒸し上がった 八宝飯がありますので、食べた後帰りましょうね。」と言いました。  
(上海外国語大学/Sh\_043\_Task\_01.xml)

(18)(19) の添削後の表現「V1 + 上がる」は、中国語では、(20) のように、<V1 + 好 hǎo> というアスペクト複合動詞に対応する。

(20) <- 好 hǎo> 「動作の完了+好ましい結果状態・結果物の創出：～上げる / 上がる」  
写好论文 (論文を書いて仕上げた)、 蛋糕烤好了 (ケーキが焼けた)

(20) のように、中国語母語話者への日本語複合動詞の教授法において、“「V1 + 上がる」は、中国語では、<V1 + 好 hǎo> に対応する” といった、対応する中国語の結果補語と対照させながら教える方法、即ち学習者の母語において対応する表現と比較しながら教える方法は、効果的であることが示唆される。

## 6. 中国語のアスペクト複合動詞の習得：<V1 + 上>

一方、同じ漢字 <上 shàng> が用いられている中国語の複合動詞 <V1 + 上 shàng> は、以下に示すように非常に多義で、日本語母語中国語学習者コーパスにおいては、習得が非常に困難な結果補語であるが、英語の前置詞や句動詞の教授法と同様、以下の (21)(22) のような UP 概念、ON 概念、WITH 概念を用いた認知的教授法が有効と思われる。

(21) <-上 shàng<sub>1</sub>>

「上方移動」から「達成義」への意味拡張 (UP 概念の意味拡張)

「動作の結果+ {上方の場所/目的/基準} に到達する」

(a) 「上方移動」: 登上山顶 (山頂に登る), 爬上八楼 (8階まで登る)

(b) 「目標到達」: 买上房子 (家を買えるようになる)

住上房子 (新しい家に住めるようになる)

(c) 「数量詞で表される基準に到達」:

最近失眠, 每天只能睡上三, 四个小时。(最近は不眠で毎日3, 4時間だけしか眠れない)

只要中午睡上一刻钟, 下午工作就特别有精神。(お昼に15分眠れば, 午後は仕事の効率がよい)

(22) <-上 shàng<sub>2</sub>>

「平面に対する動作の結果+平面にモノが存在するようになる」(ON 概念の意味拡張)

(a) 「固着: ~つける/つく」:

「平面に対する動作の結果+平面にモノが存在するようになる」(ON 概念)

贴上 (貼り付ける), 写上姓名 (氏名を書き込む/書き入れる),

穿上衣服 (衣服を身に着ける), 戴上 { 眼镜 / 帽子 / 手套 } ( { 眼镜 / 帽子 / 手袋 } を身に着ける)

(b) 「二つのモノの { 結合 / 接触 }」(WITH 概念)

关上门 (ドアを閉める), 锁上 (鍵をかける), 接触上了 (連絡がついた/接触ができた)

(c) 「状態変化, 起動+継続: ~し始める/~になる」(起動の ON 概念)

会议还没开大家就议论上了。(会議開始前に皆はすでに討論し始めた),

最近又忙上了。(最近また忙しくなった), 爱上一个女演员 (女優を好きになる)

前出の (3) 「中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典」では, 日本語母語話者中国語学習者において, 以下の下線部のような, 複合動詞 <V1 + 上 shàng> を使うべきところ, 使われていない誤用例がみられる。

- (23) 但是农村的人体验 → 了(add, 态助词) 城市 → 的生活 (add, 宾语) 的话 → 之后 (replace, 方位词), 他们一定 → 会(add, 能愿动词) 喜欢了 → 喜欢上 (replace, 时态助词 趋向补语) 这个 → 种(replace, 量词) 方便 → 的(add, “的”字短语 结构助词) 生活。

(TUFS\_CH\_053/東京外国語大学中国語専攻2年/学習歴13ヵ月)

- (24) 因为在那里土地和房租很便宜, 我们花很少 → 的 (add, 短语 助词 “的”字短语 结构助词) 钱 → 就(add, 副词 关联副词) 可以住在 → 住上(replace, 补语 介词短语补语) 良 → 很(replace, 副词 程度副词) 好的房子。

(TUFS\_CH\_074/東京外国語大学中国語専攻2年/学習歴13ヵ月)

- (25) 我开始缝纫的 → (delete, 结构助词) 开端 → (delete, 名词) 是 → 因为(add, 连词) 我想给迪斯尼的布制玩偶穿 → 穿上 (add, 补语 趋向补语) 衣服, 但是它的衣服很贵, 所以我 → 就(add, 副词 关联副词) 挑战自己做, 给它做浴衣。

(TUFS\_CH\_083/東京外国語大学中国語専攻3年/学習歴26ヵ月)

<V1 + 上 shàng> の教授法は、英語の前置詞・句動詞の教授法同様、(21)(22) に提示したような英語の前置詞の空間概念を援用して、教授法に活用することが有効であろう。

## 7. 日本語母語中国語学習者にみられる未実現を表す助動詞<会 huì>の過少使用

日本語母語話者にとっては、事象の実現を表す結果補語の習得が困難であると同時に、未実現を表す助動詞<会 huì>の脱落( $\phi \rightarrow$ 会)と表示する)という現象もみられる。<会 huì>の脱落は、超級学習者でも顕著であり、日本語母語話者にとっては習得が困難である。

(26) 买东西的时候, 我不( $\phi \rightarrow$ 会 huì) 货比三家。

私は買い物するとき、あちこち値段を見比べたりしない。

(TUFS\_CH\_027/東京外国語大学中国語専攻4年/学習歴37 カ月)

(27) 我跟妈妈一起去公园的时候, 妈妈( $\phi \rightarrow$ 会 huì) 坐在公园的椅子上等着我练习。

私が母と公園に行くときは、母はいつもベンチに座って、練習が終わるまで付き合ってくれる。

(TUFS\_CH\_027東京外国語大学中国語専攻4年/学習歴48カ月)

(26)(27) を執筆した学習者は、いずれも東京外国語大学中国語専攻4年生で、(27)の学習者は留学を経て学習歴が4年以上の上級中国語学習者であるが、未実現を表す蓋然性の助動詞<会 huì>の脱落は、筆者も含め超上級になっても日本語母語話者にとっては克服が困難な誤用である。

張景斌 (2017:22) では、東京外国語大学日本語母語中国語学習者コーパスにおいて、未実現を表す蓋然性の助動詞<会 huì>の産出状況について、正用 4.1%, 誤用 95.9% (脱落 83.6%,

置換 11.3%, 語順 1.9%) という調査結果を示している。一方、張景斌 (2017:20) の調査によれば、上述の英語母語話者中国語学習者コーパスでは、未実現を表す蓋然性の助動詞<会 huì>は、正用が 93.1%, 誤用 6.9% (削除 3.7%, 置換 2.4%, 語順 0.8%) という産出であり、日本語母語話者に 86.3% もみられる「脱落による誤用」は観察されないと述べている。

このように、英語母語話者と日本語母語話者間では、実現・未実現に関する中国語の助動詞<会 huì>の産出状況においても、対照的な産出状況が観察される。その要因として、やはり日本語の母語の影響が推測される。即ち、日本語のテンスを表す体系は、非過去「-ル」と過去「-タ」のみで、未実現事象を表す場合も、非過去「-ル」を用い、未実現の事象を表す専用のテンス・アスペクト形式がない。こうした日本語と中国語間のテンス・アスペクト体系の相違が、未実現を表す蓋然性の助動詞<会 huì>の習得を困難にしていることが推測される。

## 8. 中国語と日本語における事象の実現・未実現を表す言語形式の相違

中国語においては、「実現した事象」(Telic Event) には、アスペクト複合動詞(結果補語)が必要であることが多く、「未実現の事象」(Atelic Event) には、未実現を表す助動詞<会 huì>が必要であることが多い。しかし、日本語母語話者には、中国語における「アスペクト複合動詞(結果補語)」の習得もむずかしく、さらに、「未実現」事象に助動詞<会 huì>が必要であることもなかなか習得

できない。なぜならば、日本語では、未実現事象には「非過去形」であるル形が用いられ、ル形が有標の言語形式ではないからである。日本語では、「過去」対「非過去」という事象認知が卓越し、上掲の (26)(27) のような、<会 hui> が必要な「一般性のある事象」には、ル形を用いる。

一方で、中国語ではテンス体系ではなく、アスペクト・モダリティに関わる「実現」対「未実現」という事象認知が卓越し、実現した事象には、結果複合動詞を用いることが多い。さらに、実現の否定には、結果複合動詞の V1V2 の間に否定辞 <不 bù> を挿入して、可能補語と呼ばれる表現、例えば <找不到> (探しているが、みつからない)、<写不出来> (書こうとしているが、書けない) <睡不着> (寝ようとしているが、寝付けない) を用いる。

これに対して、日本語においては、実現した事象については、動詞の自他対応における自動詞 (e.g. 「植える - 植わる、切る - 切れる、直す / 直る」等の自他対応の自動詞) や、アスペクト複合動詞 (e.g. 読みこむ、書き出す、書き上げる) が、事象の完結性を表示する言語形式となる。

こうした完結性に関わる中国語と日本語の相違は、以下の (28) に示すように、中国語母語話者日本語学習者コーパスに観察される誤用、すなわち<習慣的事象にも、「-た」を使う> という「-た」の過剰使用につながっていると推測される。

#### (28) 習慣的事象における「-た」の過剰使用

私はいろいろ物が好きです。買いたいです。特に、小説と漫画を買うのが大好きです。それは私の趣味は本を読むことですから、お金時々持ってはいないです。それは私の失敗ことです。部屋の本棚はいっぱいになっても、本を買いたいです。母は「もう買わないで」と言いました。しかし、時々本屋へ行って大好きな本を見て、ついお金を使っていました (→使ってしまいます)。買っての後で、私が後悔しました (後悔します)。私はいつも「本を買いません」と思いますか、新しい本を買いました (→買ってしまいます)。私は多いお金の使わないを知って、買います。そして私の本棚に小説と漫画が多いです。節約しなければ、失敗します。母はいつも「自分金銭の管理は大変です」と言いました (→言います)。仕事をする時、お金を使いすぎますと儲金しませんのは一生お金持ちじゃないです。いつもお金を使いすぎました (→使いすぎます)。

(東京外国語大学グローバルCOE「日本語誤用オンライン辞典」Mc\_010\_2010)

(28) を執筆した中国語母語話者は、習慣的事象には日本語では「-た」形を用いないということをまだ習得しておらず、実現した事象には「-た」形を用いなければならない、という学習者なりの一般化規則を作っているように見える。すなわち、母語である中国語の「実現」対「未実現」という事象認知が卓越し、「実現事象には、日本語においても何か有標の標識をつけないといけない」という過剰般化が働き、「-た」形の多用につながっていると推測される。

次に、日本語も中国語もアスペクト複合動詞が存在するのに、なぜお互いにその習得が困難になるのかについて考察したい。その理由として、SVO 言語としての中国語と、SOV 言語としての日本語の統語構造の相違が、アスペクト複合動詞の語彙構造の相違と関連していることが考えられる。次節では、日本語と中国語における統語構造の相違が、どのように両言語のアスペクト複合動詞の語彙構造の相違をもたらしているのかについて考察したい。



## 9. 日本語・中国語の統語構造とアスペクト複合動詞の語構造の相違

青木 (2013) は、日本語のアスペクト複合動詞が歴史的に、 $_{VP}[_{VP}[ \text{項} + V1]V2]$  のように、V2 の目的語補文が V2 と複合することにより変遷してきたことを示唆している。こうした日本語のアスペクト複合動詞の歴史的変遷は、日本語の SOV の統語構造が複合動詞の内部構造に反映され、前項動詞  $[_{VP}[ \text{項} + V1]]$  が、後項動詞 V2 の目的語節として機能する OV 構造型複合動詞が卓越していることが、歴史的にも支持される。

一方、望月・申 (2011) では、SVO 語順の中国語においては、SOV 語順の日本語とは異なり、目的語補文との複合動詞化が起らないこと、中国語では、歴史的に SVOC 結果構文から S[VC]O 構文への変遷の結果、結果複合動詞が卓越するようになったことを述べた。このため、中国語では、未完結事象を表す「始動：～かける、出す、始める」、「継続：～まくる」、「未遂：～そこなう、～損じる、～忘れる」は、複合動詞で表すことができない。

日中語ともに、アスペクト複合動詞の内部構造は、日本語・中国語の統語構造の反映であり、日本語の複合動詞は、「(V2 の目的語補文構造中の V1) + V2」の複合から形成されるのに対して、中国語は「結果構文の VC (= V1 + 結果補語)」構造からアスペクト複合動詞が形成されるという相違がある。

中国語には、目的語節を補文にとる「始動：V1 することを {～かける / ～だす / ～始める}」「継続：V1 することを {～まくる / ～続ける}」「未遂：V1 することを {～そこなう / ～損じる / ～そびれる / ～しかねる / ～遅れる / ～忘れる}」「過剰行為：～過ぎる」「再試行：～直す」「相互行為：～合う」といった「目的語補文」型複合動詞は存在しない。中国語では、日本語とは異なり、目的語節内の動詞との複合が起らないのである。

以下、日本語の目的語補文型複合動詞が中国語ではどのように表されるかについて考察してみよう。例えば、以下の (29) に示すように、日本語で「始動、継続、未遂、再試行」を表す目的語補文型複合動詞は、中国語においては、 $[_{VP}V2 + [_{IP} \dots V1 \dots]]$  という目的語節をとる動詞句か、 $[_{IP} \text{ 没能 } méi néng [_{VP} \dots V1 \dots]]$  のように過去の不可能な事態を表す他動詞文に対応し、アスペクト複合動詞で表すことができない。

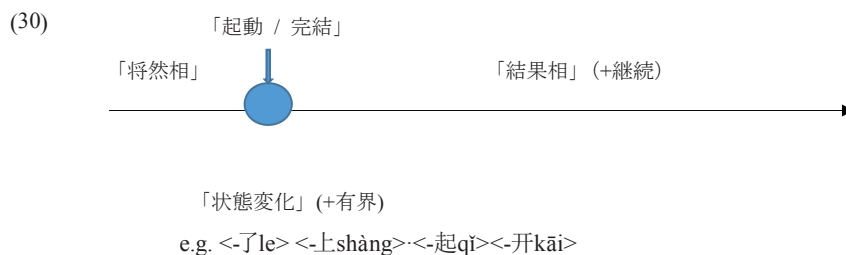
- |                 |  |
|-----------------|--|
| (29)a. 「～始める」   | ( $[_{VP} \text{ 开始 } kāishǐ [_{IP} \dots V1 \dots]]$ )    |
| b. 「～続ける」       | ( $[_{VP} \text{ 继续 } jìxù [_{IP} \dots V1 \dots]]$ )      |
| c. 「～損なう / 損ねる」 | ( $[_{IP} \text{ 没能 } méi néng [_{VP} \dots V1 \dots]]$ )  |
| d. 「～忘れる」       | ( $[_{VP} \text{ 忘 } wàng [_{IP} \dots V1 \dots]]$ )       |
| e. 「～直す」        | ( $[_{VP} \text{ 重新 } chóng xīn [_{IP} \dots V1 \dots]]$ ) |

では、中国語はなぜ目的語補文をとる複合動詞がないのだろうか？ 例えば、「書き忘れる」に対応する中国語として、なぜ <\* 忘写 wàng-xiě, [忘れる + 書く]> という複合動詞が不可能なのだろうか？ その理由として、中国語においては、事象を「時間順の語順」で複合動詞を形成する「因果関係型」、或いは「先行 - 結果」語順型が、優先順位が最も高い複合動詞の型であることが挙げられる。

さて、複合動詞の後項には一見例外的に、起動相を表すものもある。例えば、<- 上 shàng> <- 起 qǐ> <- 开 kāi> といった例がある。これらは、事象の「起動+継続」という意味を添えるアスペクト複合動詞であるが、中国語学では、結果補語として分類されている。

しかし、こうした事象の「起動+継続」も、中国語においては、アスペクト的に「有界性」をもつ状態変化として捉えられる。これは中国語の完結相アスペクト接辞 <- 了 le> が、「存続場面のパーフェクト」(Perfect of Persistent Situation; Comrie1976:19-20, 望月 1997:63-64) として、将然相を表す際にも用いられることと関連する。即ち、中国語では、結果相でも、起動相でも、以下の (30) に示すように、「有界的」事象の結果相として、完了アスペクト接辞 <- 了 le> 及びアスペクト複合動詞の後項 <- 上 shàng> <- 起 qǐ> <- 开 kāi> 等が用いられる。

日本語でも、同様に瞬間現在のスポーツ中継などの「～走った!」や、探しものがみつかった際の「あった!」のように、状態変化を表す有界性を表す「-た」の用法がある。



日本語・中国語の複合動詞の対照は、望月・申 (2011) に基づけば、以下の表 3 のようにまとめられる。日本語と中国語の母語話者が、互いに中国語学習及び日本語学習において、アスペクト複合動詞の習得が困難である要因は、日本語・中国語間の統語構造の相違が、複合動詞の語構造の相違に反映されているからである。

【表3】 日本語と中国語における句構造/複合動詞の構造と語順原則

	日本語	中国語
1. 動詞句の構造	1. OV語順 2. 動詞句構造: 動詞句の主要部: 右側 動詞の後に結果述語は許されない。	1. VO語順 2. 動詞句構造: 動詞句の主要部: 左側 動詞の後に結果述語がおかれる。
2. 複合動詞の語順 原則の優先順位	1. 「句構造と語構造の一致原則」 →目的語補文関係の複合動詞の卓越性 e.g. 「書き忘れる」 「早過ぎる」 2. 「時間順原則」 e.g. ・因果関係: 溺れ死ぬ ・先行-結果関係: 食べ残す 売れ残る	1. 「時間順原則」 →結果複合動詞の卓越性 e.g. <吃膩 chī nì>, <穿慣 chuān guàn> →目的語補文型複合動詞は存在しない。 <*膩吃(食べることに飽きる)> <*慣穿(履くことに慣れる)> 2. 「句構造と語構造の一致原則」 →目的語補文型は存在しないが、主語補文型は存在する。 e.g. <-完>, <-上>, <-錯>, <-多>, <-少>, <-遍>

## 10. 日本語・中国語の時間認知の「有界性」の相違と習得への影響

中国語のアスペクト複合動詞は、結果複合動詞として、実現した事象を表わすのが原則である。一方で、日本語のアスペクト動詞は、目的語を補文とする複合動詞が基本構造で、「～かける / かかる」のように、未完結事象の将然相を表す複合動詞も存在する。玉岡・初 (2013:416) で示唆されているように、中国語母語日本語学習者にとっては、中国語には存在しない未完結事象の将然相を表す「～かかる / かける」アスペクト複合動詞の習得難易度は高い。

一方、日本語母語中国語学習者の場合は、「事象が実現したか、未実現か」という事象の時間的「有界性」(boundedness)、即ち「完結」対「未完結」を区別する結果補語 <- 到 dào > <- 成 chéng > <- 完 wán > の産出が、英語母語話者中国語学習者・中国語母語話者に比べて、著しく出現頻度が低いことに加え、未実現事象に使われる蓋然性を表す助動詞 <会 huì> の脱落も、超級学習者になっても改善せず、「永遠の誤用」として化石化する可能性が高い。

日本語・中国語学習者コーパス間で、双方向に観察されるテンス・アスペクトの習得困難性は、日本語・中国語間の「時間認知の有界性」の類型的相違が影響している。日本語・中国語間の「時間認知の有界性」の相違は、以下の表 4 のように要約できる。

【表 4】 日本語と中国語の時間認知の有界性と第二言語習得への影響

構造における有界性	中国語	日本語
1. 動詞構造における有界性を表す形式	<p>強い</p> <p>1. 「結果補語」の重要性</p> <p>2. 日本語の第二言語習得 ⇒中国語母語話者は、日本語の自他対応のうち<b>結果性を表す自動詞を多用</b></p>	<p>弱い</p> <p>1. a. 補文関係の複合動詞が卓越 b. 結果性の認知は自他対応の自動詞用法が担う</p> <p>2. 中国語の第二言語習得 ⇒日本語母語話者による中国語の<b>結果補語の脱落</b></p>
2. 文全体における有界性を表す形式	<p>強い</p> <p>1. 実現・未実現の区別 実現 ①完了を表す“-了le” ②結果補語 未実現“会huì”助動詞</p> <p>2. 日本語の第二言語習得 ⇒1) 実現事象に、「-た」を多用。 2) 実現事象を表す結果相「-ている」の習得が上級まで困難。</p>	<p>弱い</p> <p>1. a. 過去・非過去の区別 過去 “-ta” 非過去 “-ru” (未実現事象にも用いられる)</p> <p>b. 実現/未実現の形態的区別 「-ている」完了/未完了 両用形式 1) 未実現の進行相 2) 実現相の結果相</p> <p>2. 中国語の第二言語習得 ⇒ 未実現“会huì”助動詞 の脱落</p>

表4に示すように、中国語では「有界的認知が卓越」している。このため、「実現した事象」か「未実現の事象か」を区別する文法形式として、「実現を表すアスペクト辞“-了le”」や結果補語、事象全体の未実現を表す助動詞として、<会hui>助動詞が存在している。

一方、日本語では、「有界的認知は非卓越的」で、実現事象か未実現事象かを区別する文法形式が卓越していない。「過去/非過去」という形式はあっても、「実現/未実現」という形態的区別が卓越しておらず、「-ている」は、「未実現の進行相」及び「実現相の結果相」の両用形式である。「無界的認知型」の日本語は、時間構造の認知においては、「無界的」(unbounded)である。そして、中日語間の時間認知が「有界的」か「無界的」か、という類型的相違が、相互の言語のアスペクト複合動詞の習得を困難にし、誤用・非用を生み出しているのである。

### おわりに

中国語と日本語における有界性の相違は、日本語と英語で従来言われてきた池上(1981)『「なる」的な日本語』や、影山(2002)『ケジメのない日本語』に代表されるような、日英比較の知見とも相通じるものがある。日本語母語話者が、英語習得のみならず、中国語習得においても、母語である日本語の無界的特性を理解・意識したうえで、臨むことは有効であろう。「外国語習得には、まず日本語を知ること」が第一歩なのである。

### 注

- 1) 東京外国語大学中国語専攻34年生165名(CEFRレベルB1及びB2レベル)が2013年度及び2014年度に、授業の一環として授業外に執筆した課題としての中国語作文データで、425作文, 179,940字からなる。
- 2) 非公開ではあるが、筆者の研究チームが収集し誤用タグをつけている英語母語中国語学習者コーパスで、691名による691作文, 136,212字からなる。内訳は、第一に中国語CEFRレベルA2レベル予備試験応募者225名による225作文, 35,518字, 第二にB1レベル試験応募者344名による344作文, 33,490字, 第三にB2レベル試験応募者122名による122作文, 67,204字から構成されている。
- 3) 中国語母語話者の頻度数については、中国教育部语言文字应用研究所で公開している<現代汉语語料庫検索><http://www.cncorpus.org/index.aspx>で検索を行っている。

### 謝辞

本研究は、以下の四種類の研究費を用いた研究成果である。

- [1] 科研費 (16H01934)「海外連携による日本語学習者コーパスの構築および言語習得と教育への応用研究」  
(2016-2020 年度, 研究代表者: 迫田久美子)
- [2] 東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門「日本語学習者コーパスプロジェクト」(2016-2019  
年度, 研究推進者: 望月圭子)
- [3] 科研費 (17H0235)「国際連携・高大連携による双方向英語・中国語・日本語学習者コーパスの研究」(2017-2020  
年度, 研究代表者: 望月圭子)
- [4] 科研費 (20H01278)「国際連携・高大連携による英語・中国語・日本語 < 作文 / 対話 > 学習者コーパスの研究」  
(2020-2022 年度, 研究代表者: 望月圭子)

### 参考文献

- 青木博史 2013「複合動詞の歴史的変化」影山太郎編『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』, pp.215-241. ひつじ書房.
- 姫野昌子 1999『複合動詞の構造と意味構造』ひつじ書房.
- 影山太郎 1993『文法と語形成』ひつじ書房.
- 影山太郎 1996『動詞意味論－言語と認知の接点』くろしお出版.
- 影山太郎 2002『ケジメのない日本語』岩波書店.
- 影山太郎 2013「語彙的複合動詞の新体系－その理論的・応用的意味合い－」『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』, pp.3-46. ひつじ書房.
- 望月圭子 1997「中国語のパーフェクト相」『東京外国語大学論集』第55号. pp.55-71.
- 望月圭子 2009「中国語を母語とする上級日本語学習者によるヴォイスの誤用分析－中国語との対照から－」『東京外国語大学論集』第78号. pp.85-106.
- 望月圭子 2018「日本語教育における複合動詞の習得－英語の句動詞・中国語の補語との比較から－」『東京外国語大学論集』第96号. pp.183-204.
- 望月圭子・申亜敏 2011「日本語と中国語の複合動詞の語形成」《汉日语言对比研究论丛第二辑》汉日对比语言学研究(协作)会. pp.46-72. 北京大学出版社.
- 望月圭子・申亜敏・小柳昇 2020「日本語・英語・中国語双方向学習者コーパスにみられるテンス・アスペクトの習得」『日本語・日本学研究』第10号. pp.137-152. 東京外国語大学国際日本研究センター.
- 申亜敏 2007「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」影山太郎編『レキシコンフォーラム No.3』 pp.195-227. ひつじ書房.
- 申亜敏 2009『中国語結果複合動詞の意味と構造－日本語の複合動詞・英語の結果構文との対照及び類型的視点から－』東京外国語大学博士論文.
- 申亜敏・望月圭子 2009「中国語の結果複合動詞－日本語の結果複合動詞・英語結果構文との比較から」小野尚之編『結果構文のタイポロジー』pp.407-450. ひつじ書房.
- 玉岡賀津雄・初相娟 2013「中国人日本語学習者の語彙的複合動詞の習得に影響する要因」影山太郎編『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』pp.413-430. ひつじ書房.

- 張景斌 2017『中国語の助動詞“会”の誤用からみた中国語・日本語のテンス・アスペクト・モダリティー学習者コーパスに基づく実証的研究-』東京外国語大学総合国際学研究科言語文化専攻・言語・情報学コース修士論文。
- 張正 2019「日本語母語学習者による中国語結果補語の習得と母語の影響-学習者コーパスに基づく分析」『言語・地域文化研究』第25号, pp.51-59. 東京外国語大学.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect: An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Related Problems*, Cambridge University Press.
- Tai, James H-Y. 1984. “Verbs and Times in Chinese: Vendler’s Four Categories”, *Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society.
- Tai, James H-Y. 1985. “Temporal sequence and Chinese word order”, In John Haiman (ed.), *Iconicity in Syntax*, 49-72, Amsterdam and Philadelphia : John Benjamins.
- Huang, James C.T. 2006. “Resultative and Unaccusatives: a Parametric View”, 『中国語学』234号, pp.1-43. 日本中国語学会.
- Zeno Vendler . 1957. “Verbs and Times” *The Philosophical Review*, Vol. 66, No. 2, pp. 143- 160.
- 沈家煊. 1995.<“有界”与“无界”>《中国语文》第5期. pp.367-380.
- 望月圭子, 申亚敏, 福田翔, 游韦伦, 张学博, 张正. 2016. <以英日语为母语的汉语学习者在学习量词短语与结果补语时的偏误差异> 齐沪杨主编.《现代汉语虚词研究与对外汉语教学:第六辑》pp.421-446. 上海译文出版社.